県南教育事務所
教　育　情　報

南風 nanpu

令和６年６月２５日（火）
No.　２　【 通刊 第 223 号 】
文責　：　教務課指導班

管内小・中学校研究主任研修会

４月 26 日（金）に、校内研究の方法や研究推進及び「確かな学力育成プロジェクト」について学び、研究主任としての指導力の向上を図ること、各校の研究活動の充実と教員の授業力の向上に資することを目的とし、管内小・中学校研究主任研修会を実施しました。当研修は、新任の研究主任を対象とした基本的な研究の進め方にかかわる内容と、本県の「確かな学力育成プロジェクト」推進にかかわる内容の、２つの柱で行われました。研修会の様子を紹介します。

協　議
『確かな学力育成プラン』のさらなる活用に向けて

改めて確かな学力育成プランの目的について理解していただくとともに、昨年度の各校での確かな学力育成プランの成果と課題について中学校区ごとに協議を行いました。

【協議の中から】
○質問紙調査は該当学年だけでなく、全校調査も行いながら評価していく必要があるのではないか。
○確かな学力育成プランに関わる教師の振り返りを毎月行っている学校の取組を参考にしたい。
○昨年度は職員間での周知ができていなかった。今年度は、目指す資質・能力について先生方にアンケートをとり進めてきたことで周知が図られている。
○校内研究と一体化させていくことが大切である。

講　義
検証改善サイクルの確立に向けた諸調査結果の活用について

≪県南教育事務所　　岩渕　勝也　主任指導主事≫

○検証改善サイクル（CAPD）の確立に向けて、以下のポイントを大切にすること。

C	調査結果の分析から学年や教科を越えた児童生徒の課題を洗い出す。
	検証可能で明確な「学校全体で重点的に育成を目指す資質・能力」を設定し、全校職員で共有する。
A	全県共通取組を学校の実態に合わせ、手立てとして取り組む。
P	全職員が主体的に参画できるよう、校内の運営体制を確立する。
	年間に複数回 CAPD サイクルが回るよう計画する。

○目指す資質・能力については、必要に応じて、授業や各教科における具体の姿を明確化することで、授業に落とし込めるものとなること。
○特に「C」（チェック）を大切にすること。その際、教科調査や質問紙調査、学校質問紙調査を活用すること。また、学校質問紙調査については、組織的な取組を推進する上でのチェックリストとして活用してほしいこと。
○校内研究会等では、目指す資質・能力を協議の視点に加えるなど、「教科の壁」を越えた校内研究が一層推進されるよう研究主任としての企画やコーディネートが必要であること。

情報交換
全県共通取組の実践交流

４つの全県共通取組にかかわる各校の実践について、グループごとに情報交換を行いましたので紹介します。

【諸調査結果の積極的活用】
・年２回全職員で学調分析を行い、課題の洗い出しと改善策について検討（ワークショップ型で）。
・質問紙の項目で教師の振り返りを行っている。
・昨年度の分析結果も提示し、比較・追跡しながら検討。

【授業研究の活性化】
・互見授業。ひとり１授業。指導案なしの気軽さを大切に。
・ICT を活用し、動画や板書の共有。
・視点を共有してから参観・協議することで、内容が深まり、より自分事と捉えられるようになった。

【家庭学習の内容の充実と習慣化】
・個に応じた家庭学習の取組。
・自分で決めて取り組む。
・タブレットの活用。
・授業との連動を重視。

【言語能力の育成】
・新聞等を活用した、条件作文等の取組。
・各教科において対話と振り返りを重視。
・特別活動や総合的な学習の時間での取組。
・日頃から「やりとり」を大切にしている。

アンケートから（一部抜粋）
・子どもの意識調査だけでなく、教師にもアンケートを用いることで、より授業改善につながると思いました。
・資質・能力の具体を授業に落とし込める形にすることで、より明確になるとわかり、生かしていきたい。
・校内で共有したい他校の様々な実践を知ることができました。
・諸調査結果の分析は、これまでも行ってきたつもりでしたが、まだまだ足りないと感じました。
・全職員での共有がまずは何より大切と感じました。

１学期も終わりの時期が近づいてきました。研究主任の先生方におかれましては、今一度各校で作成した「確かな学力育成プラン」を見直していただき、これまでの取組について評価し、必要に応じてその改善策について検討していただきたいと思います。